

■第119回 み言葉の分かち合い

●第1朗読 イザヤ書 60・1～6

バビロン捕囚という試練、都の荒廃、そして、再出発と新たな希望に向かって「起きよ、光を放て」と呼びかけ、失われた尊厳と使命を取り戻せよと命じます。神の臨在と祝福は「あなた」に向けられ、「主の栄光があなたの上に輝く」と、希望と救い、復興の到来が宣言されます。世界を「地」「諸国の民（異邦の国々）」と表され、そこは暗闇（罪、滅び、混乱）に覆われて絶望が広がっている中にあっても「人や状況に左右されることなく」、「あなた」に神の救いの光が確かに現れる、との約束です。祝福されるのは「あなた」だけではなく、「諸国」「王たち」もこの「光」に引き寄せられ、回復と栄光へと導かれるとの壮大なビジョンが描かれています。「目を上げて、見渡せよ」との呼びかけは、希望をもって神のビジョンを見よ、との励ましです。捕囚からの帰還で「息子」「娘」らは、離散し分断された家族や民族から再び結ばれ、コミュニティは回復すると約束されます。回復と祝福、民の救いと栄光に対する感謝と歓喜は、「喜び」や「輝き」の言葉となり、物質的な回復は「海よりの宝」「国々の富が集まる」と語り、霊的な回復だけでなく、現実的（経済・社会的）な再建もされます。当時、交易で富を運んだ遊牧民や外国の商人は「ミディアン・エファ・シェバ」の人々で、彼らは「らくだの大群」を率いて「黄金と乳香（香料などの貴重品）」を携えてやってくる姿は、異邦の国々が神と神の民に敬意を表して献げ物をもたらします。これは、神の光と栄光が世界に示され、礼拝が起こるとの預言です。

●第2朗読 エフェソへの手紙 3・2、3、5～6

パウロがローマで軟禁されることになったのは、異邦人にも救いがあると宣べ伝えたからです。彼は、「なぜ自分が異邦人のために働くのか」を、この箇所です。神がパウロに無償で委ねられた使命・任務は「異邦人を救うための宣教」で、彼はこれを「恵み」だと告白します。旧約時代には隠されていた「秘められた計画」は、新約時代の今、聖霊によってパウロに「明らかにされた」のです。この「計画」とは「イエスによってユダヤ人も異邦人も『一つの民』となる」ことで、この手紙での「最も深い核心部分」となります。この詳細は、①イエスによりユダヤ人と異邦人が一体となる。（エフェソ2・14-16）②救い主の誕生と十字架の死による贖いの完成。（ガラテヤ4・4、1ペトロ2・24）③救いは民族単位から全人類が対象となる。（詩編22・27-28）④教会が計画の現場となる。（エフェソ3・10）「約束されたものを一緒に受け継ぐ」ことを「共同相続」と呼びます。この内容は、①新しい神の国では、神の支配のもとに置かれる民となる。（マタイ25・34）②イエスと結ばれる者には永遠の命が与えられる。（ヨハネ3・16）③霊的なあらゆる恵みが信者に注がれる。（エフェソ1・3）「イエスの相続者」には、苦しみも栄光も共に与ります。（ローマ8・17）イエスによって、ユダヤ人も異邦人も「神の家族」にされるので、共に相続人となるとの宣言は、当時として画期的で、革命的な驚くべき内容となりました。

●福音書朗読 マタイ 2・1～12

イエス（救い主）の誕生を星（民数記24・17）で知った東方（ペルシャやバビロン地方）の博士（異邦人）たち3名は、エルサレムでヘロデ王と会い「新しい王になった方を拝みにきた」と言ったのは、預言の成就を告げるため、①一つの星がヤコブから出る。（民数記24・17）②メシアが誕生する場所。（ミカ書5・1）③メシアに王がひれ伏し仕える。（詩編72・10-11）④献げ物の黄金・乳香。（イザヤ書60・6）これを聞いたヘロデ王は動揺し、祭司や律法学者を集めて情報収集させると、「ベツレヘムよ……イスラエルの統治者となる者が出る。」（ミカ書5・1）ことを掴みます。東方で見た星が博士たちの道案内をするのに従う（従順を表す）と、イエスが誕生した場所で星は止まります。博士たちはこの家に入りマリアと幼子に会って喜び、礼拝をして贈り物（黄金・乳香・没薬）を献げます。博士たちは夢でお告げを受けたとおり、別の道で帰路につきます。ヘロデ王は権力と欲望に駆られ、ラマにおいて幼児虐待の罪を犯します。（エレミヤ31・15）神は、この虐待の叫び声を聞かれ、母の涙を見て、神の正義は必ずや行われ、回復されとの希望が、イエスの誕生によって成就されます。（エレミヤ31・17） 【贈り物】黄金・王の権威。乳香・神の子。没薬・イエスの死を暗示。

著者 蒲池 明憲